

松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第14回〕会議録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第14回〕
2. 開催日時 令和3年3月18日（木） 19時00分から21時30分まで
3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室
4. 出席者氏名
【松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員】※敬称略
大蔵秋利、高坂義宏、饗庭光雄、大澤今男、清水正育、唐澤功、下澤洋貞、米山俊孝、川瀬八十治、黒澤哲郎、寺沢秀文、熊岡正志、小澤文人、中島芳夫、宮下彰、北林誠、井上美智恵、小林幸彦、松浦善文、松下正博、田中真喜子、西條和男
【JR東海】
中央新幹線建設部 名古屋建設部 古谷担当部長
中央新幹線 長野工事事務所 平永所長、齋藤主席、工藤主席
// 大鹿分室 太田垣分室長、三品係長
【長野県】
飯田建設事務所リニア整備推進事務所 調整課 折井課長、齋藤課長補佐、平担当係長
【役場】
宮下町長、久保副町長、小沢課長、佐々木室長、村松主事
田中課長、小木曾課長、矢沢課長、池上課長、下井課長、塩倉課長、加山局長
5. 議題（非公開）
 - （1）町からJR東海へ提出の要望書
 - （2）JR東海による実施計画
 - （3）今後の予定
6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）
—
7. 傍聴人の数
10人
8. 会議資料の名称
 - ・会議次第、資料（町作成）
 - ・別冊資料（JR東海作成）
9. 会議の概要
 - （1）開会 清水副委員長
 - （2）あいさつ
 - （3）会議事項
上記のとおり
 - （4）その他
 - （5）閉会

10. 会議録

(1) あいさつ

(黒澤委員長)

皆様こんばんは、委員長を仰せつかっております黒澤です。本日は年度末という大変お忙しい中、JR東海の皆様、長野県の皆様、委員の皆様本当にありがとうございます。リニアによるトンネル工事の発生土もいよいよ本格化して参るわけでありまして。本日は第14回の開催という事でございます。忌憚のないご意見を頂戴いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(宮下町長)

皆様改めましてこんばんは。大変年度末のお忙しい中、またお仕事でお疲れの中、本日は松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会でお集まりいただいております。本当にありがとうございます。大変新型コロナウイルスも長期化をしている中で先般21日に緊急事態宣言が解除された報道が出ておりますが、長野県の中では、長野県内の県民がレベル4となっている状況の中で、新型コロナワクチンも新聞で報道されているとおり準備もされている訳ですが、在庫が入ってくるのかどうか、不透明な中で配られています。早く浸透するように思っておりますし、会議を控えているのも増えています。今回リニア対策委員会も大切な会議でありますので、今後は対策を取りながら開催をしていくことをお願いいたします。今まで様々な説明会が行われてきた中でご意見がたくさん出ました。また3月11日にJR東海さんの方にご意見をまとめまして要望書を提出させていただきました。その提出にあたりましては、各団体から要望書いただき、また長野県さんから様々なご助言をいただいたことに感謝申し上げます。本来その要望書を踏まえてこれからの2回目の説明会に向けて運搬計画の説明をJR東海さんからもいただきますので、よろしくお願いいたします。今回の発生土運搬の事業に松川町として協力する中で住民にとっての安心安全を確保することは同然のこととして、またそれに伴って町にとって課題であった道路事業が、少しでも良くなる。将来に残せる事業となりますよう今後も関係機関と協力しながら、行って参ります。よろしくお願い致します。

(JR東海/古谷担当部長)

改めましてこんばんはJR東海で長野県を担当しております古谷でございます。本日は年度末というお忙しい所皆様の貴重なお時間を使いまして、説明させていただくことを感謝申し上げます。また、日ごろは委員会の皆様には、このリニア中央新幹線事業推進にあたりまして、ご理解ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。合わせて御礼申し上げます。さて、大鹿村でのリニア中央新幹線の掘削工事でありまして、7月豪雨で一番奥の2ヶ所のトンネルの工事を休止していた状況でした。今年1月になりまして、トンネル掘削工事の再開をしております。これによりまして、大鹿村で出ておりました4か所の非常口からの掘削を順次進めている状況でございます。今町長からありましたとおり、新型コロナウイルスまだまだ予断を許さない状況でございますが、工事関係者一同しっかりと感染予防を行いながら工事方は、進めさせていただいている状況でございます。本日は、先週11日に松川町で頂いた要望書、それから今まで地元にご説明していた中で地元の方から頂いたご意見を踏まえて、今までご説明してきた運搬計画を再検討して参りました。本日は運搬計画を再検討、ルートとか、時期とか、台数ですとかそういう所をご説明させていただき、本日この場で皆様とご議論の後、地元にもご説明させていただく形になります。我々としましては、地元の意見をしっかりと聞き、地元の思いを理解したうえで事業を進めていくと念頭においておりますので、推進委員の方々にはご指導をいただきながら進めて行きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

(長野県/折井課長)

本日は年度末のお忙しい所お集まりいただきましてありがとうございます。また日頃より長野県の要請、我々が行っておりますリニアの調整業務にご協力いただきまして、合わせて感謝申し上げます。本日の委員会でございますが、今までご挨拶のあった内容で進めるわけですけれども、県といたしましても、今まで行いました地元の説明会の中でいただいたご意見を代用する。また地元、町と調整・連携するべきことはして、課題解決の調整をしていきたいので、よろしく願いいたします。委員会ではJRさんからご意見をいただいて運行開始に向けてのご協力をお願いできればと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

(2) 会議事項

(1) 町からJR東海へ提出の要望書

(小沢課長)

地元住民への説明ですが、令和2年6月下旬にJR東海から計画が示された、8月の沿線5地区の代表者との打ち合わせをしまして、昨年11月から1月まで計11回でありますけれども関係機関の皆様の方にお集まりまして説明会を開きました。それから各種団体からの要望の状況でございますけど9月7日の商工会さんを始めまして、要望をいただいております。その他に有志団体、個人からも要望書を頂いております。9月24日の女性有志の会からは、JR東海に直接に要望書が提出されております。町からJR東海に要望の変更ということで、議会、特別委員会にしております。2月10日に議論した内容を踏まえて、また関係機関との調整を踏まえて、要望書をまとめました。町民の安全安心な生活を守ると言うのは変えておりません。関係機関とのことを考慮しまして、具体的事項を示さないこととしました。

(要望書の確認で内容説明)

(黒澤委員長)

町からJR東海さんに提出した要望書について、経過・内容説明がりましたが、委員の皆さんから質問を受け付けたいと思いますが、すでに提出されているようですけれども、経過・要望書についてご質問がありましたらお願いします。

(寺沢委員)

前回委員会にも要望書について、私の方からも意見申し上げましたけれど、町の中心部・商店街、役場の中心部を提言することはいいことだと思うが、前にも申し上げましたが東浦～松川インターへ向けては集中していて、その後の軽減については、正直なところ今回の要望書或いは、今後のルートには見られないところですので、この点については、地域の皆様からも不安と何らかの対応をという意見も出ているため、それらを含めて通行量の低減、それが出来ない場合には、なんらかの回避と迂回について、回避に耐えるため町道整備について、要望書の文言には書かれていませんけどJR東海さんにはご理解検討いただきたい。

(黒澤委員長)

ご意見をいただきましたが、それについては、町側から何か回答はございますか。

(小沢課長)

要望書に関しては載せておりませんが、ここに関しましては秋の行楽シーズンはかなりの観光のお客様が参りますので、JR 東海さんには要望書の提出時に要望しておりますので、今後とも強い口調で臨んでまいりたいと思います。

(松下委員)

要望書は、1と2のルート以外はないという解釈でよろしいのでしょうか。

(小沢課長)

要望の段階では3ルートということをお願いしているところです。

(松下委員)

そうすると、前回南側の方の広域農道を一部利用するとの話もあったが、もしここをないということを決めたのであれば、その理由は、どのような理由なのでしょう。

(黒澤委員長)

要望の段階でと思いますけれども。

(宮下町長)

前回の3ルート分散の説明会では、待避所や誘導員の不安もあったし、この事業発生土運搬ただけで何も残らないという大きな話の中で、今回要望の中で2の話してございます。片桐松川沿いの町道護岸線は、10年前から松川町の重要な東西を結ぶルートが、無いと言う事で不安視されており、ここを何とかできないか。長年の懸案事項でございました。現在ダンプが走ってすれ違いが出来る道というのが、県道松川インター大鹿線しかないため、この道をしっかり整備いただいたうえでここをメインルートと言う形で要望書を書き直していただいて、ここをメインにというお話をしているところです。

(小沢委員)

宮坂通りから小中学校前ですけれども、登校時・下校時の時間帯は、通さないように配慮してほしい。

(黒澤委員長)

この後 JR さんから要望書に対するご回答をいただきますので、そのあとでご回答をいただきたいと思っております。要望書を提出するまでの経過と要望書の中身について、ご質問という事で承りたいと思っております。

(熊岡委員)

要望書は、現時点でしょうか。これからの事情も変わってくると思っておりますけど、その時の対応は、どういう事を考えていますか。

(宮下町長)

要望書は現時点のもので出してありますが、運搬計画からの話してありますと長期にわたると言う事でもありますので、いったん始まった後は、JR に全ておまかせではなくて、協議をしながら進めて運行の中で会談を進めて行くと言う事で、この中では確かに書いてありませんが、そういうような設定は、しているなあと思っています。

(熊岡委員)

前回の会議の時に説明いただいて平石橋の拡幅とか。そういう言う事は、考慮しないということだった。後考えますとあれだけで通れるのか。今でも行ったりするのに大変苦労している状態です。急遽回らなくてはならない時は、大変なところだなあと思っております。要望書には具体的なものは載っていないが、そういった所も考えていくことをお願いしたいと思っております。

(小沢課長)

平石橋の前後につきまして、所轄の問題となりますので、橋はどうしても無理なのですが、道路の拡幅改良をしていただいて、なんとかしていきたいと思っておりますが、この後 JR の方の説明会がありますので、この説明を聞いていた後にいろんなご質問をお願い申し上げます。

(黒澤委員長)

具体的な部分、疑問な点あるかと思っておりますけれど、この後 JR に要望書を提出されての回答ありますので、ただいま自分の疑問事項も含めまして説明を聞いていただきたい。

(2) JR 東海による実施計画

〔JR 東海／工藤主席より説明〕

【質疑応答】

(西條委員)

確認なのですが、復路の鶴部交差点の信号右折は、今回が初めてですよね。当初鶴部は使いませんという話を聞いていたのですが、今回初めて鶴部信号の話が出たのですが、この経緯は、100%ではないけど大事なところ、基本的に地元の理解は得られているのでしょうか。

(小沢課長)

町道鶴部線の使用につきましては、今まで委員会の説明の中で特に上新井から負担の方を鶴部も上片桐の方もと意見をもらいました。鶴部の皆さん、自治会長に来ていただきまして、話して何とか通らせてほしいとお願いをしております。地元の方にも全員に集めまして、話をしてもいいと言う事ですので、ここを使うと言う事に関しては、上新井さんからも話がありましたので、ここを使わせていただきたいと言う事です。

(西條委員)

住民はこれからという説明会でしたので、住民は理解をしたのではないのでしょうか。当初は、鶴部の信号から下は一切使わないという雰囲気があり、そんな話で進んできていたと思っております。もう1点、ダンプが爆発的に増える。どこで何を運んでいるか分かりませんが、自分の会社が国道沿いにあるのですが、交通集中というか渋滞が頻繁に起きています。今現在も渋滞が発生しているのですが、その原因を考えるに右折レーンが、高森町にも松川町にも無いと思っているのです。渋滞の原因となるのが、右折です。軽一台でも止まってもダンプが後ろに並んでしまう事が見受けられるので混んでしまいます。一番近くでは藤森ですね。ダンプ一台が止まると繋がってしまう。リニアのレーンを藤森交差点しかり、鶴部交差点しかり何とか右折レーンに数台並べるようにしないと歩行者は安全対策を取るの普通ですが、一般住民が使う部分では、道路のスムーズさという部分では、不満がたまるとは思いません。今でも昼間の国道の渋滞を見るとイライラしてしまうのは私だけではないはず道が広ければ、道がスムーズに走ればそんなに苦にならないのではないかとダ

ンブが増えることにより渋滞が頻繁に起こるとなると、リニアに関係なくても、みんな一緒になってしまおうと言う事なのです。何とか拡幅をぜひ考えていただきたい。
国道なので簡単に行けないと思うのですが、何とか県にお願いしたいと思います。

(黒澤委員長)

それでは、現状認識についてと右折レーンの方法について、JRさんの方でお願いいたします。

(JR 東海/平永所長)

現状、ダンプが増えてきているように感じている方はいらっしゃるかと思います。私どものリニアの関係では飯田市・喬木村に発生土を活用いただいておりますが、こちらの運搬台数は徐々に増えてきています。昨年12月では片道約50台程度、1月には90台、2月には130台、3月には140台程度が運行していると認識しております。この台数についてどのように感じられるか、様々なご意見があると思っておりますが、現在の国道の大型車の交通量を考えると、若干の影響があるのかなと考えております。インター大鹿線に片道100台通らせていただきたいとお願いを申し上げているところですが、インター大鹿線では8時間で片道1600台あるうち、大型は300台であるので、5台に1台大型が通行している状況です。これに当社の100台加わると4台に1台程度の混入となってきます。これらが右折時にたまる原因になるのではないかとということですが、当社が運搬する車両は、できる限り右折を避けるようにルート計画しました。現状拡幅が必要な部分についてはお願いするつもりですが、県や町と協議し検討していきたいと考えています。

(黒澤委員長)

それでは、県からも国道153号右折レーンについての説明をお願いいたします。

(長野県/折井課長)

国道153号右折レーンのお話が出ましたので、こちらは県の管理となります。具体的なお話は難しいです。右折車両を原因として渋滞が発生していることは県も認識していますが、国道の交差点付近には家屋や事業所があるため、費用や時間的な要因ですぐにできない状況です。関係する市町村さんのご要望をいただきながら、優先順位つけながらやっているのですが、今日のところはご理解をいただけたらと思います。

(西条委員)

天竜川の橋の工事が始まると、みんなリニアに関係のある車両じゃないかと勘違いするかもしれません。ダンプ業者などの横のつながりを持つことを考えていただきたい。リニアに関係ある車両が制限速度を守ってもそれ以外の車両が制限速度を守っていないという話が少なからず出てくると思いますが、横のつながりで連携を取ってもらい、安全対策を統一いただければと思います。

(JR 東海/平永)

ご指摘のとおり、様々な事業が下伊那地域に集中してきます。ダンプの運行についてなんらかの協議会ができればと思っておりますが、現状の例を申し上げますと小渋川砂利協議会という組織があります。その中でどのように安全運行していくか、協議会のなかでルート検討しています。下伊那全体で協議会ができるかは、国道事務所や県など様々な箇所と協議する必要あると思っておりますが、実際工事するうえでは材料の手配などを協議する必要もあると思っておりますので、安全対策協議の遡上にあげたいと考えています。現時点では、当社独自の考えなので今後検討していきたいと考えています。

(大蔵委員)

確認ですが、町道古町境の沢線の説明はありませんでしたが、通行しないということによろしいでしょうか。

(黒澤委員長)

それでは、JR さんご回答をお願いします。

(JR 東海/平永)

松川インターに向かう通行計画の上で、分散ルートとしてご提案をさせていただきましたが、今回は分散ルートということについては基本的にやめて、片桐松川沿いのルートを往復運行にさせていただきたいという話でございます。点線の部分については、工事にある程度の時間がかかるため、その間については大変ご意見頂いておりますが、県道を通り松川インターまで通行させていただきたいということです。今回は、運行ルートとして通らないことを提案しておりますが、例えばインター線や護岸線で自然災害等により通行できない場合については、別途ご協議をさせていただくことがあるかもしれません。基本的な運行ルートとしては、片桐松川沿い道路を考えております。

(小沢委員)

先ほどは先走ってしまい、申し訳ありません。令和4年度からは片桐松川沿いの道路工事が完了するので、小中学校の前を通行しなくなるので良いですが、それまでの間は通るといことなので、児童の登下校の時間帯だけでも通らないような検討はできないでしょうか。

(JR 東海/平永)

いままでに地域の皆様よりいただいた要望にも通学児童の安全対策の徹底してほしいという意見を多数頂いております。最大限配慮するために、特定区間の運行方法についてお示したところです。この運行方法については安全に運行していくという内容でありまして、今ご指摘いただいた登下校の運行については、実際の運行計画を立てた上で検討してみなければわかりませんので、小中学校 PTA とお話をし、この時間の運行をしないでほしいという話があれば、運行計画が成り立つか検討をさせていただきたいと思っております。貴重な意見であり、重いご意見と理解していますので、今後検討していきたいと思っております。

(寺沢委員)

リア早期開通を担うものとして迅速な工事を願う中で、住民との合意をしっかりとさせていただきたいですが、交通集中の回避はしっかり検討してほしいと思うのは、大鹿村では上がりは県道、下りは河川内道路として仮設道路ができており大鹿村役場から渡場交差点まで 20 分足らずと大変スムーズな運行となっております大変驚きました。松川町内でもスムーズな運行ができる仕組みを JR と町で考えてほしいと思います。また中心部回避は良いですが、東浦に集中してしまう。東浦の交差点については、県道と幹線道路が交差する部分でもあり朝は交通渋滞が発生する箇所ですので、それについて回避ができるよう検討をしていただきたいと思います。例えば清流苑に上がる大きな道を活用などについて検討したのか、もしくは検討したが断念されたのか、もう少し伺いたい。また、大鹿村の河川沿いの仮設道路は良くできていますが、片桐松川内に仮設道路を作ることは技術的、河川法的にはできないのか教えていただければと思います。

(JR 東海/平永)

東浦交差点から先の通行に関しては、松川町の大切な果樹園などの施設が集中しており、トップゾーンには大変混雑しているというお話を伺っております。また、熊岡委員からはデータを頂き検討

しているところです。そういった内容を踏まえて、トップシーズンや連休が繋がる時期や11月のふじの時期などできる限り分散して行きたいと考えていますが、分散ルートについては検討中で現在は示すことができません。分散していくということであれば、改めて協議させていただきたいと考えています。前回最大550台という話の際、現在の交通量を踏まえてどのような状況になるかシミュレーションした結果があります。550台を単純に8.5時間で割って台数を出すと2方向からの流入台数を多めにとって時間当たり40台と設定いたしました。さきほどお伝えしたとおり現況の交通量については把握しておりますので各40台が流入した際のシミュレーションをお見せいたします。(スクリーンにより説明)40台が流入した場合でも交差点で列にはなりますが、渋滞するという結果にはなりません。このような状況を踏まえると東浦に左折する台数は最大300台となりますが、現状では大きな渋滞が発生することはないと考えていますが、改めて検討していただく必要があると考えております。先ほど申し上げたトップシーズンの台数を協議していきたいと考えています。

(黒澤委員長)

河川の通行についてもご質問がありました、県からお願いします。

(長野県/折井課長)

大鹿村については河川敷道路を作っておりまして、往復で分けて通行しているところです。この河川内道路については、松川インター大鹿線の拡幅工事、防災工事を何力所かで行っておりまして、現状でも狭い道路に工事車両を入れて工事を実施していますので、工事やっている期間は片側交互通行が何箇所もあるということで、非常に通行に支障が出るということもあり国土交通省の許可をいただき通行しています。通行は工事が終わるまでの区切りとなっております、誘導員がない夜間や休日は閉鎖しているところでもあります。なかなかそれを片桐松川で行うのは難しく、昨年7月豪雨で河川内道路がかなり被災しまして、通行止めとなり通行開始できたのは12月でしたので、河川内道路は管理の体制について厳しいものとなっております。

(大沢委員)

具体的に護岸線を拡幅するという工事について、ただいま説明いただいた中で河川はなかなか難しいということですが、幅員7mということは民地側を広げるような形になるのかお聞きしたい。また、町道鶴部線は、いったんあの道を使ってという話も出ましたが、現道は勾配がきつく幅員も狭いということで経路として使わないという話が町からあり、区会の会議の中であの道は使わないという話を自治会長にした経過がありました。しかし、再度鶴部線を使いたいということで、自治会長に話が合ったようですが、そういうことは難しいと思っていますし、分散をするという要望の中で、結果的にこの鶴部に集中するようになってしまったことについて納得するのはなかなか難しいのではないかと思います。

(黒澤委員長)

拡幅工事について町で説明をお願いします。

(小沢課長)

護岸線の拡幅については、平石橋から上流側は工場などがありますので河川の流水の流れを妨げない範囲で河川側へ広げたいと考えています。上流側は、徐々に南側の土地が必要になります。平石橋から下流は、警報局の辺りはぎりぎり河川側を広げていきまして、徐々に下に向かって竹村工業さんの駐車場のほうをお願いしたいと考えています。7mの幅員が取れないとリアのダンプ以外も通りますので、安全に通行できるような道路としたいと考えています。

鶴部線に関しては、鶴部にお願いして意見が分かれているという話も伺っています。鶴部で全てだめということは言えないというような意見もいただいておりますので、説明責任がありますので、町から説明をしていきたいと思っております。

(熊岡委員)

片桐松川沿いの道路工事は令和4年までにということですが、それまでに土地の所有者との交渉をしなくてはならないので、用地交渉が1人でも躓けばどんどん時間が経っていきます。今まで説明してももらった分散の計画からインター線の通行が長引くわけです。今の進捗状況についてはどの程度なのかご説明いただければと思います。

(黒澤議員)

工事期間内に交渉ができるのかということですが町側で説明をお願いします。

(佐々木室長)

現在、地権者の皆様や工場の関係者にお願いの通知を差し上げたところでございます。内容は、道路を町内に通じる主要道路として、JRさんの力を借りて二車線道路にしていきたいという内容のお願いであります。お住まいの皆様には、一軒一軒お願いしてきたところです。また、遠方の方は、文書でのお願いしているところで、現状まったく反対だという方はいらっしゃらないと思っております。現在JR東海さんで測量を進めていただいております、その測量の成果を元に今後計画を入れていきます。その計画によって用地幅が出てきたところで、また改めてご説明する予定です。ご心配のとおり、1人反対出れば進まない話ではありますが、町も精一杯努力して交渉しているところであります。測量につきましては3月中に実施いただきまして、4月早々には計画に入っていきたいと考えております。

(熊岡委員)

シミュレーション見せてもらったがダンプが1時間に40台通るという非常にわかりやすいシミュレーションでした。ただ、40台というのは片道の話ですよ。往復だと、インターから東浦の交差点は特に秋の収穫期の出入りで80台通るということで30秒に1台という計算だと思います。なかなか道に出られない。選果場に入るにも入れない。もなりん等にも支障をきたす。県外から来たお客様にも迷惑がかかると思います。そういったことを考えると現状のまま通すのは難しいという感覚です。通れると言われれば通れるということだと思いますが、今感じていることを説明してもらえればと思います。

(黒澤委員長)

東浦交差点からインターまでについてですが説明の中では配慮をいただけるとのことでしたがどのような配慮をいただけるのかJRさん説明をお願いします。

(JR東海/平永所長)

さきほど説明した1時間に40台という数字は、550台が全てインターに上がった場合のシミュレーションの数字でありまして、片道100台という数字になりますとおおよそ1時間に12台程度、5分に1台となります。550台ではなく100台、200台と台数については低減したというところがあります。さきほど委員長さんからのお話がありましたが、分散についてどのような配慮を考えているかということですが、先ほど申し上げましたが、具体的な協議しておらず簡単に申し上げることはできませんが、東浦からインターまでの交通量減らすために何らかの分散できないかと想定しています。5年の後半については最大150台程度運搬する必要があるかと思っております。東浦からイ

ンターまでの間はこのタイミングまでに分散について考えていく必要があるかと考えておりますので、少しお時間をいただき具体的な検討をさせていただければと思っております。

(黒澤委員長)

できれば新たな提案をいただいたシミュレーションをいただければと思います。

(熊岡委員)

大鹿村のトンネルの延長は3kmくらいでしょうか。

(長野県/折井課長)

今回の発生土運搬に係るトンネルについては2本ありまして、1km弱と1.2km程度だったと思います。

(熊岡委員)

費用を計算させていただいたが、仮に1mで500万円くらいになりますよね。2kmとすると単純に計算して100億円くらいのお金がかかっているのではないのでしょうか。町道護岸線の話の前に、町道の管理についてはお金をつかわないように丁寧に使うように住民の協力もあって低コストにと町は考えていると思います。ところが、今回のように大型ダンプが通るような道路であれば多少はお金をかけていただいて、次の時代になっても十分使えるような道路にさせていただきたい。現状平石橋に250台なり300台の大型を通すなんてことは無理だと思えます。この際にぜひ県道の停車場線の橋を利用することをご検討いただければと思います。

(黒澤委員長)

どのような道路改修となるのか、改修についてしっかりしていただきたいという話だと思います。また、平石橋の安全性や耐久性についての話かと思えます。町より説明をお願いいたします。

(小沢課長)

土質についてボーリングしないと、どれくらい舗装が持つかわからない状況です。また、U字溝を入れると来年の3月までに間に合わないのではないかと状況です。それから橋の関係については、県道の松川橋については14t荷重であり、ダンプはぎりぎり通れるような橋ですが幅員が狭いです。また、国の床固工事がまだできておりません。やるのであれば、国の床固工事と一緒にやらないと床固工事を実施する際に橋を再度壊さなければならぬのでそこら辺を踏まえまして、国・県・町で検討しなければなりません。今すぐには難しい状況だと思います。

(松下委員)

松川インター大鹿線と神護原線の交差点についてですが、注意喚起標識・カーブミラーについて記載されていますが、非常に危険な交差点であって、標識系統だけでは事故が起きる可能性が十分にあると思います。一時的な通行ということではありますが、ダンプが下から上がってきた場合に緩いS字型の道になるので農協を抜けるまでダンプが死角となって上流から降りてくる車両が見えない状況です。例えば新井の信号機があり歩道もあります。駅前にも歩道があります。そういった中で歩道を通行する人がいればダンプが詰まってくると思えます。神護原線から駅の方に曲がった場合に上流から来た車が追突する恐れが十分にあります。直角に曲がった場合にふっともう裏に車が付いていたという経験は皆さんあるかと思いますが、この交差点はまさにそのとおりの交差点です。県道ではあります。何とか信号つけてもらえないかこの席でもお願いしたことはありましたが、農協前にもあるので2つ連続はなかなか難しいと思いますが、例えば環状型交差点のようなものにできないか。

また、神護原線は松川町の準幹線道路であり交通量も多くなってきているので、標識系統では安全対策は不可能ですのでその辺についてご意見をお伺いしたいです。

（黒澤委員長）

議会の特別委員会でもご指摘がありました。現時点での対応についてJRより説明をお願いします。

（JR 東海/平永所長）

神護原線と県道の合流する交差点は非常に危険という認識です。実態として、過去に交通事故も多く何らかの対応が必要とっております。現状は斜めに道が合流する交差点で、カーブミラーが3枚設置されていますが、どのミラーを見ればどの方向なのか分かりづらい部分があります。現状の分かりづらさを解消するにはこういった対応をするべきか道路管理者と交通安全協会やPTA とご相談をさせていただきながら、カーブミラーの適切な設置について、検討をしていきたいと考えています。ただ、それだけでは上からスピードを出してくる車両についての対応は難しいと思いますので、安全看板や安全標識で危険について促すようなことを考えています。ハード的な対応は知恵がなく難しい状況ですが、危険な交差点ということは認識しておりますので、我々の車両が原因で事故が発生しないよう、しっかり対応を考えていきたいと考えております。

（黒澤委員長）

町道と県道の交差点ということではありますが、町や県からなにか説明ありませんでしょうか。

（小沢課長）

信号機設置について公安に相談させていただきました。現在信号機を設置するには150m離れていないと設置ができないということです。また、農協の交差点が感知式であり連動するのが難しいと公安から回答いただきました。あの交差点は内カーブで見通しが悪く、カーブミラーの位置についても県とJRと検討をしていかなければならないと考えています。ただ、信号機に関しては今現在の対応は難しいと思っております。

（松下委員）

2つ連続して信号機をつけてほしいということではなく、1つにしてはどうかということです。事故があってからではダメでJRさんから標識について考えていくと答弁いただいたが、標識でなく信号機をどうすれば良いかということを考えていただきたくです。また、町や県にも絶対に人身事故はあってならないということでそういったことを検討していただきたいと思っております。

（黒澤委員長）

交差点を一つに改良するというご提案かと思っておりますので町、県、JRで連携して検討していただきご回答いただければと思います。

（西條委員）

今回区長として最後の参加となるので、悔いのないようお願いがあります。前回も言ったが、発生土の利用の話で個人的に発生土を分けてもらえないかという話を何人かに聞かれました。せっかく有り余るほどの発生土の利用をしたいという話もあるのです。工事があってよかった、という人も出てくると思います。せっかくなので他に流すのではなく町内で活用できる部分はあるのではないかと思います。発生土の利用先について懐深くやればよいのではないかと思います。

(黒澤委員長)

発生土の利用について JR より説明をお願いします。

(JR 東海/古谷担当部長)

我々も発生土については貴重な資源であると考えております。できるだけ有効に活用していただきたいということで、最初は県から各市町村や関係機関に発生土の活用について斡旋をしていただきました。やり方としては市町村から県を通じて候補地の情報提供を頂き、長野県から当社へ情報提供をいただきます。そこから地形や運搬距離、法令などを確認し、優先順位をつけて協議しているところであります。基本的には候補地があれば市町村へ話を上げていただいて、市町村から県を通じて JR に情報提供をいただき、検討をさせていただくような流れになっています。

この事業における、発生土置き場に関しては、環境アセスメントの中で事後調査を実施しています。個人的な発生土活用は難しいですが、いったん町を通してそのような候補地をいただければ検討をさせていただきますが、手続きが非常に難しいということを認識いただければと思います。候補地の情報提供をいただけるのはありがたいことだと思っております。

(3) 今後の予定について

〔松川町/佐々木室長より説明〕

【質疑応答】

・なし

(4) その他

(5) 閉会

〔清水副委員長〕

以上